

県立勤労者福祉施設・現地調査の概要について

第1回 現地調査 8月23日(月)

(対象：県木曾勤労者福祉センター、県松本勤労者福祉センター)

◇木曾(10:55～11:55)

出席者 委員・事務局：小林委員長、中山委員、林委員(労働雇用課) 福田補佐、金子主任
(7名) 町 上松町 茂澄課長、原係長

主な質疑状況

(概況説明)

- ・利用人数は横ばいだが、収入が減少している状況
- ・2階の会議室を身体障害者が利用する際に、人力で車いすを運んでいる状況であり、エレベーター設置の要望がある(1階に音楽室以外の会議室がないことも一因)
- ・上松駅前であり、立地条件がよく、施設利用者が駅周辺の飲食店を利用するなど、地域への経済効果があるため、町としては必要な施設と位置づけている

(質疑)

Q：設置目的である勤労者の福祉増進に寄与することを目的としての利用状況は？

A：労働組合などの利用は減少している。

：(事務局)これについては、全施設を対象に県で集計しているところ。結果がまとまったら専門委員会に提出したい。

Q：施設ができた頃と比べて全体の利用はどうか？

A：開所当時に比べれば利用は少なくなっていると思う。企業の利用が多かったが、不況の影響もあって減少している。

Q：近隣の同様の施設は？

A：町内に上松町公民館、日義に木曾文化公園文化ホールがある。

Q：広域での利用状況は？

A：2割若しくは3割程度だと思う。

Q：運営に町費がかなり支出されていることについてはどう認識しているか？

A：町の一般会計からの負担は多いが、集客による経済効果は高いと考える。

Q：民間で同様施設の建設計画はあるか？

A：ない。

Q：住民から運営に際し町費負担していることについて、批判的な意見はあるか？

A：特に聞いていない。

Q：管理体制の常勤3名、臨時4名の内訳は？

A：常勤が兼務である課長、係長、そして共済会の職員。臨時はシルバーの方。

Q：現指定管理期間終了後に町で引き取る考えはあるか？個人的な意見でよい。

A：ゆくゆくは町で管理した方がよいと思う。

Q：100万円未満の町で負担した修繕の実績は？

A：平成21年度は約100万、平成20年度は約130万。

Q：必要な整備は県として行っていく必要があるが、どのような方針で行っているか？

A：(事務局)県の負担となる100万以上の修繕については、必要なものは財政当局に要求していく。

Q：修繕費の負担について、町側は大変ではないか？

A：早急に対応しなければならない事案もあり、町でもある程度の負担は仕方ないと思う。

◇松本（14：35～15：50）

出席者 委員・事務局：小林委員長、安藤委員、中山委員
（労働雇用課）福田補佐、金子主任
（9名） 市：松本市 林課長、藤森補佐、瀧澤主査、伊藤主任

主な質疑状況

（概況説明）

- ・21年度はリーマンショックによる経済・雇用危機に対応するため、市等が雇用対策事業等で利用する例が増え、減免が増えたため、収入は減少した
- ・利点としては市街地にあるため、利便性がよく利用しやすい
- ・老朽化により多額の修繕費がかかっている。平成21年度は約400万、平成20年度は約600万
- ・今年度インターネットのLAN回線を整備する予定

（質疑）

Q：利用者の声はどのようなものがあるか？

A：駐車場の増設要望がある。しかし、常設で130台分あり、臨時でカタクラモールの駐車場を借りられることになっている。ただし、購入については以前掛け合ってみたが難しいという認識。

Q：収入は県委託金が140万ほど計上されているが、この内容について教えてほしい。

A：これは行政財産目的外使用料（食堂及び自販機設置許可料）相当分を委託料として県が支払っているものである。

Q：近隣の同様の施設は？

A：Mウイング、浅間温泉文化センター、総合社会福祉センター（南松本）、あがたの森文化会館などがある。

勤福は利用料が比較的安いし、立地がよいので、これらの施設に比べ利用率は高い。

Q：当館は勤労者の福祉増進に寄与することを目的として設置されたが、現在の利用状況はこの設置目的とかけ離れているのではないか。

A：昭和40年代の設立当時とは社会情勢が異なり、当時の労働組合の活発な運動も少なくなった昨今、時代の担い手が変わったということである程度仕方のないことだと思う。

Q：市の持ち出しの多い状況でもあり、今後の運営形態についてはどのように考えているか？

A：市に移管されて市の施設となった場合、どうしても市民が優先になってしまう。現状は全体的に利用してもらっており、その点をどう考えるかということではないか。市の持ち出しが多いのは、やむを得ないと思っている。

Q：松本に限らず市外の企業が説明会等で使う例が多くなっている。利用実態については、また精査したい。なお、市の持ち出しに関しては、他の施設に比べて人件費が多額になっている影響が大きいですが、県に提出いただいている実績報告の人件費の内訳は？

A：労政課職員12名中8名分を計上している。

第2回 現地調査 9月17日(金)

(対象：県佐久勤労者福祉センター、県戸倉野外趣味活動センター、県中野勤労者福祉センター)

◇佐久(9:30~10:30)

出席者 委員・事務局：小林委員長、(労働雇用課)福田補佐、小川補佐、柳原主査
(5名) 市：佐久市 小金井課長

主な質疑状況

(質疑)

Q：昨年度は若干利用件数が落ちているようだが。(利用者数は増えている)

A：件数の数え方で、一部屋の連続使用が多かったため(午前から夜間まで連続等)であり、部屋自体は埋まっている。

Q：旧勤福センターは中込にあったが、これが移設された理由は？

A：老朽化による。

Q：利用者が増加しているが、特別な努力をしている等の理由はあるか。

A：口コミで利用者が増えている、インターチェンジ、駅に近く立地条件が良い、駐車場が広い、等の理由が考えられる。

県外の利用者も多く、企業の説明会、セミナー、採用試験等に使用されている。

Q：現在、南の更地に計画されている総合文化会館について概要を教えてください。

A：1500人収容規模のホールを設置する。

11月14日に、総合文化会館建設について住民投票を実施する。

Q：もし総合文化会館が完成すれば、勤福センターの利用者は減ると考えられるか。

A：利用料金の設定等にもよるであろうが、おそらくは影響はある。

Q：総合文化会館と勤福センターの係わりについては検討しているか。

A：今のところあまり検討していないが、大ホールに対する小ホールとして連携していくことになると考えられる。

Q：ホールについては、近隣に類似施設はあるか。

A：臼田にコスモホール、望月にコスモスふれあいセンターがある。

Q：ホールはどんなことに使用されているか。

A：コンサート、講演会等のイベント的なことに利用されることが多い。

Q：利用状況は良いか。

A：今のところ順調。

Q：移設後、十年になるが、施設の大きな問題点はあるか。

A：大きな問題点はないが、第5会議室の壁が傷む等小さい修理が必要になってきている。

Q：ホールについて、大きなイベントの際、トイレは足りているか。

A：トイレが3箇所があり、足りている。

Q：南の更地では何かイベント等で利用があるのか。

A：一番大きいイベントは農協祭だが、今年度から取りやめのもよう。

Q：市長は勤福センターについて何か言及しているか。

A：特には聞いていない。

◇戸倉（12：30～13：45）

出席者 委員・事務局：小林委員長、（労働雇用課）福田補佐、小川補佐、柳原主査
（9名） 市：千曲市スポーツ振興課 宮入課長、永田係長、高島主査

主な質疑状況

（質疑）

Q：この総合運動施設の建設においては、県、市、雇用促進事業団等が複雑に絡んでいるようだが、過去の経緯を教えてください。

A：昭和30年代、白鳥園が第3セクターで営業を開始し、その頃ここ一帯が遊園地で、遊園地に併設してプールがあった。4年くらい前までそのプールがあったが、合併により市に他にもプールがあることになったため、これを廃止しサッカー場を建設した。レストハウスは県で建設したものを譲り受けた。

Q：（事務局）レストハウスは雇用促進事業団で勤労者福祉施設として整備して、戸倉町へ管理委託をしていたようである。

A：体育館も昔は戸倉町総合体育館という名称で使用していたが、国体のときに建設した。

Q：敷地はテニスコート、野球場、体育館の一部が県所有だが、これもかつては市から譲っていただいたと聞いているが。

A：かつては桑畑であり県の養蚕試験場があり、その建設時に所有者数人が県に提供したと聞いている。

Q：管理体制は。

A：体育館内にスポーツ振興課があり8人の職員が常駐している。全員が施設運営に関わっている。

Q：収支報告書の人件費は何名分か。

A：1名分である。（テニスコートと野球場にかかる分はおおむね1名分と考えている）

Q：サッカー場は利用が盛んであるとのことだが、テニスコートと野球場の利用者数に影響は無いのか。

A：テニスコートと野球場は利用団体が昔から固定しており、利用者数もあまり変動が無く、従って影響はあまりない。

Q：複合スポーツ施設になっているが、駐車場が不足するようなデメリットはないか。

A：バスケットボールのBJリーグの拠点になるが、駐車場不足はネックのひとつになるのではないかと危惧される。

駐車場は300台収容であるが、収容しきれず近隣の企業の敷地を借用することもある。

Q：大学等の合宿の利用も多いかと思われるが、宿泊施設からの受け入れ申請も多いか。

A：多い。4月中旬から9月末くらいまで、市内の体育施設を割り振っているが、まだ足りない場合もある。

Q：施設を一体的に管理していく中で、施設を市へ譲渡するといった選択肢も出てくるかと思われるが、現時点でどのように考えるか。

A：希望的には再開発を考えたいが、サッカー場を購入したときの値段を考えると（1億3200万）財政面で難しい。

白鳥園の買取の話も出ているが、市の財政を考えると半分活用といった考えもあるなど、折り合いがつかない。

A：19市の中で、観覧席のない野球場しかないのは千曲市のみ。市民からも請願があり、建設したいという希望はある。中央公園かここかのいずれかになると思われる。

Q：サッカー場は観客席を整備すれば、プロ使用も可能か。

A：民家に近く騒音問題があり困難。

A：名月荘は閉鎖になるのであれば、市で活用させてもらえればありがたい。ここの施設と一体的な活用も検討できる。

◇中野（15：00～15：45）

出席者 委員・事務局：小林委員長、（労働雇用課）福田補佐、小川補佐、柳原主査
（7名） 市：中野市商工観光課 小林課長、池田係長、佐々木主査

主な質疑状況

（質疑）

Q：近隣に目的を同じくした同種の施設である、中央公民館、働く婦人の家があるが、連携しているか、また反対に、このために勤福センターの利用が低いということはあるか。

A：特にはっきりした使い分けは無い。

勤労者福祉は勤労者福祉センター。趣味のサークル、教育関連、大きな集会は中央公民館。働く婦人の家は、講座開設等、どちらかという中央公民館に近い使われ方。勤労者福祉センターは企業等の利用が多い。

Q：利用料は近隣施設と比較してどうか。

A：割高である。また、中央公民館等は市の関係は無料になる。

A：同種施設があることも利用率が良くない一因ではある。

A：昨年は緊急雇用対策の企業のスキルアップのための利用が多かった。

A：大会議室が一番多く利用されている。

Q：志賀高原などの合宿で勤労者福祉センターがよく利用されているようだが。

A：特に夏場に、市内の他の体育館でまかないきれない場合に利用が多い。

Q：経済効果はどうか。

A：経済効果はあると思われる。

Q：運営についてはシルバー人材センターが常駐しているのか。

A：4人がローテーションで常駐している。午前1人、午後1人で、重複する部分がある。

Q：駐車場は正面部分だけか。

A：裏にも10台分くらいはあるが、イベントが重なると不足する場合もある。

Q：街中であり民家が近いが、苦情等はあるか。

A：特にないが、電波障害があり、共同アンテナを立てている。

第3回 現地調査 10月19日(火)

(対象：県伊那勤労者福祉センター、県飯田勤労者福祉センター)

◇伊那(10:55~11:35)

出席者 委員・事務局：小林委員長、安藤委員、(労働雇用課) 福田補佐、柳原主査
(6名) 市 : 伊那市 伊藤課長、山口係長

主な質疑状況

(概況説明)

- ・伊那市振興公社に管理を委託しており、勤福センターに公社職員が常駐している。
- ・体育館はだいたいの公式競技には対応可能である。
- ・前の勤福センターはH10の豪雪時に体育館の部分が倒壊し、改築した。前の勤福センターで貸館の部分があり、ここは現在も残っており、県から譲渡を受け名称変更して伊那市の体育施設の管理センターとして使用している。

(質疑)

- Q：体育館の利用状況について、どんな人が利用しているかわかるか(利用者の傾向)
A：利用者は多岐にわたる。(競技はバスケット、バレー等)、企業も利用している。体協も利用している。
また、夜間利用多く、一般の成人の利用が一番多い。
平日の昼間の利用をいかに増やすかが、増収を図る面からすると一番難しいところと考えている。
- Q：企業の方は会社単位で来るのか。
A：会社単位で来る場合と、体協を構成している団体で来る場合が多い。
土日の利用は大会等の利用が多い。平日の夜間については一般企業、一般選手の利用が多い。
- Q：利用を伸ばすとすれば平日の昼間ということか。
A：そうである。
- A：上伊那地域でもグレードの高い体育館であるため、上伊那地域、南信の大会はここで開催されることが多い。
- Q：平日の夜間の利用者はほとんど市内の人か。
A：移動距離の関係で市内団体の利用が多い。
- Q：伊那市振興公社への管理委託の範囲はどうなっているか。
A：管理全般。ただし指定管理を全面的に委託しているわけではなく、管理の部分を中心にやってもらっている。
- Q：市に残っている部分は？
A：基本的には使用許可と減免。
- Q：会議室を独自に使用することはないか。
A：あまりない。大会開催時の大会本部を設置する、といった使い方になる。
- Q：改築以降利用人数は順調に増えているとのことだが、今が一番多いか。
A：右肩上がりに増えている。改築前より増えていると思われる。
- Q：人件費は100万円。委託料が217万円だが、この中に振興公社の人件費も含まれているのか。
A：この委託料は清掃等の委託料である(委託料は公社への委託料というわけではない)。市からの振興公社への委託料は光熱水費等へ振り分けている。種分けが難しい。市からの委託部分が実際にどこへいくらかかっているかを掲載してある。
- Q：駐車場代は市からの借り上げ代か。

- A：市から地権者へ払っているもの。西側に勤福センターとの一体として使用している駐車場があり、その駐車場代である。
- Q：光熱水費の割合が高い印象を受けるが、夜間の利用が多いことと関係があるか。
- A：夜間照明が充実しており、ほぼ毎日、全面利用しているため。
- Q：照明を利用したときの利用料を周辺施設との均衡で定めていると思うが、照明費用は足が出ているか。
- A：使用料は照明も含めるとペイしていない。照明は1時間300円。
- Q：常駐の職員は何名か。
- A：伊那市振興公社の職員が1名。
- Q：冬季の暖房はどのようになっているか。
- A：事務室のみ。体育館は観覧席以外は暖房はない。また、観覧席も常時暖房ではない。
- Q：施設が立派なので使用料はもう少し高くても良いような気もするが。
- A：市の体育館の使用料が高めの設定になっている。県で21年に若干の料金改訂をして若干値上げをしている。
- Q：市の体育館との均衡をみているのか。
- A：市の体育館、上伊那地区の体育館、飯田等との均衡を考えている。
- A：上伊那地区でみるとこの体育館の利用が非常に多い。あと、市の体育館が3~4万、駒ヶ根市、南箕輪村の体育館が3~4万、といった状況である。次いで、駒ヶ根市の社会体育館、辰野町、箕輪村の体育館等である。
- Q：高齢者のグループの利用は多いか。
- A：あまり多くない。高齢者はもう少しこじんまりした施設を利用していると思われる。

◇飯田（13：20～14：30）

出席者 委員・事務局：小林委員長、安藤委員、磯貝委員、伊藤委員、
（労働雇用課）福田補佐、柳原主査
（8名） 市：飯田市 篠田課長、木下係長

主な質疑状況

（概況説明）

- ・ H8 . 1 2 に移設改築した。以前は飯田市役所の隣にあった建物を使っていた。現在の建物は市立病院の跡地に建てた。
- ・ 市の労政係が勤福センターで仕事をしている。休日、夜間はシルバー人材センターに委託している。
- ・ 利用者については、ここ数年は年々2～3千人増加してきている。
- ・ 最近は減免団体が多く、収入が減少してきている。（特に外国人を対象にした就労支援講座が多い）

（質疑）

- Q：利用者の傾向はどうか。（高齢者とか）
A：隣に「さんとびあ」があり、ここが満杯の場合利用してもらおう等で、高齢者が多い傾向はある。また、企業利用もあり、企業説明に利用されたりしている。
- Q：最近多く使う傾向のある団体は何か。
A：企業が説明会で利用することは増えている。不定期利用者が定着してきている傾向ある。
- Q：最初の建物は昭和42年に建てているが、当時は市役所の敷地の中にあったのか。
A：市役所の敷地の一部に建っていたが、市役所とは別建物だった。
- Q：市の施設とつながっているが、連携等について、建て替えた当時の構想はどうであったか。
A：社協の事業が増加し市役所の外へ出た。また、合併等で職員が増え、市役所が手狭になってきており、市立病院の跡地が空いたのでこちらへ移築したと思われる。関連したところで一緒にやれば、駐車場等についても効率的に利用できる。
- Q：メインの施設が体育館という位置づけになっているが、体育館としての利用が多いか。
A：体育館としての利用が多い。催し物会場としての利用は少ない。
- Q：利用ピーク時はいつ頃か。
A：ここ5～6年ではH21が最多。
- Q：人件費の按分はどのように決めたか（どんな計算方法で算出しているか）。
A：市職員（木下係長）の給料の一部を計上している。
- Q：予算で清掃委託費が45万円程度増加しているが理由は何か。
A：定期清掃以外に、経年変化により清掃規模が大きくなってきているため予算を増額した。
- Q：労働相談、就労支援で常に利用している団体はあるか。
A：高齢者生協、南信労政事務所、勤労者関係の団体（労働組合等）である。
- Q：外国人就労支援の利用が多いとのことだが、どんな内容か。
A：労働局の事業で、国から県に依頼があって3カ月半くらい続けて使用している。
- Q：利用者が全く無い日はあるか。
A：平日でもだいたい本日（視察日）くらいの利用がある。
利用者が多いときは駐車場が一杯になってしまう。予約段階で駐車場が満杯になってしまう恐れがある場合は、自動車で来場するならば利用を断る場合もある。

Q：近隣に駐車場はないのか。

A：近隣にはない。良い駐車場があれば、もう少し利用率が上がると思われる。

Q：近隣に貸し会議室的な公的施設はあるか。

A：地場産業センター、公民館、飯田市民会館、県公民館、勤労者福祉総合センター等がある。

Q：県の創造館とは利用者が重複しないか。

A：重複はあまりない。